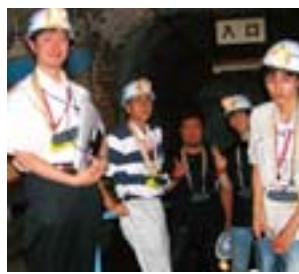


炭鉱遺産をどう活用するか。

実践を通して学ぶ計画コンペ。

「炭鉱サミット2005 in 夕張」と札幌学院大学大学院



題して、2005年11月5日に「炭鉱サミット2005 in 夕張」が開催された。当時は、夕張市をモデルに札幌圏5大学の学生による計画コンペも行われた。

最優秀賞に選ばれたのは、対象地域を歴史景観公園に見立てた札幌学院大学大学院地域社会マネジメント研究科によるプラン。「大学で学んだ理論を、実践を通じて生かしてみたい」という院生6人が自主的にプロジェクトチームを結成し、コンペに臨んだ。

夕張の歴史的な背景や地元住民の暮らし等を考慮する一方、統計データを分析し、地道な現地調査も重ねたという。チームリーダーの上家正裕さんは「最も難しかったのはアイデアの定着。具体的にどのようなプランとして表現するのかで苦戦した」と振り返る。担当の太田教授のアドバイスでチームは息を吹き返し、見事コンペレー

スを勝ち抜く。「プロジェクト全体を検証し、今後につながるように発展させていきたい」と上家さんは抱負を語ってくれた。

学ぶ

想像力をふくらませながら、先人に学ぶ、未来へつなぐ。

北の縄文CLUBの「縄文文化体験学習」



1998年に立ち上げられた「北の縄文CLUB」は、函館市南茅



部地域の縄文文化を盛り上げている市民グループだ。会員数は約70名。年齢層も20代～70代と幅広い。南茅部地域の発掘調査に携わる女性たちを中心に、縄文人の文化や生活に関心を寄せる人々が集まり、縄文人と同じよう

に土器や編物を作り、体験学習を重ねている。

06年1月に体験学習した「勾玉

(まがたま)づくり」では、「縄文時代の人たちが何を考え、どんな道具で、どんなふうに作ったのだろう」と、想像力をふくらませながら制作できるのが楽しかった」と、参加者たる嵐田美代子さん、大宮トシ子さんは声を揃える。体験メニューは、骨角器(釣り針)づくり、アンギン編み、土器づくり大会など多彩。

「さまざまなもの学習を通して得た知識や技術を広く知っていただき、繩文文化の普及につとめたい」。嵐田さんら会員による、時空を超えた先人たちへの敬意と親しみは、

川のまち・旭川を代表する名橋旭橋。その魅力を全国に発信した小学生がいる。道教育大附属旭川



「全国こども橋サミット」と北海道教育大学附属旭川小学校

小学校6年の片桐珠希さんと渡辺夏海さんだ。

2人が参加した「全国こども橋サミット」は、橋を通して地域の魅力や暮らしその関わりを深めようと企画されたもの。2005年度は全国から8校が参加し、作文やスライド等で、それぞれに自慢の橋を紹介した。自らも発表した片桐さんは「日本には様々な橋があることに息づく名橋への誇りは、次代を担う子どもたちによつて脈々と受け継がれていくことだろう。

でもある。